

# 西教寺報

第 9 3 号

仏歴 2547 (2003・平成 15) 年  
7 月 18 日 発行  
呉市中央 7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
TEL 0823(21)2798  
FAX 0823(21)2795  
郵便振替番号  
01340-3-29117

## 紙 面

「大瀛和上二百回会に因んで」：岩崎正衛（住職） 1  
 （俳句）原爆の 堀岡春三さん  
 西教寺にある大瀛師の書： 2  
 長ノ木本坊修復始まる： 3  
 世話人 簡本ゆかりさん： 4  
 敬悼録 4  
 佐々木桃枝さん： 4  
 「藤六」：久保田利数 4  
 ご命日最勝講法座： 4

長ノ木本坊西側に駐車場： 4  
 降誕会（お瀛・初参式・  
 ビンゴゲーム・入学奉告式）： 5、6  
 活動する婦人会： 6  
 長ノ木本坊西門前に駐車場： 7  
 誓子の日記：岩崎誓子 7  
 御礼・お詫びと訂正： 7  
 西教寺法座と例会のご案内： 8



本格的に工事が始まった本堂修復の様子。写真は、瓦を降ろした屋根の最上部（棟）に立つ南法務員。立つてみるとかなりの急傾斜です。

## 大瀛和上二百回会に因んで

岩崎 正衛（住職）

今年、かの「三業惑乱」の時、文字通り生命をかけて、浄土真宗のご法義のために尽くされた真実院大瀛和上の二百回会です。三業惑乱とは、時の本願寺第七代能化智洞師が、『わたしがアミダさまを拝むときには、心で『アミダさまお助け下さい』と思

い、その思いから口にナモアミダブツと称え、体に合掌礼拝する、すなわち私の身口意の三業にかけてアミダさまにお願いするのが親鸞聖人伝統の正しい「安心である」といわゆる「欲生安心」を主張されたのです。本願寺の能化とは今で言えば龍谷大学の学長と勸学寮の寮頭とを兼ね、ご門主に代つて、ご安心の正否を糾す権限が委ねられていたのですから、絶大な権威がありました。

は十数年に亘り、ついに幕府の介入するところとなり、一八〇四（文化元）年江戸の寺社奉行所で、智洞師と大瀛師との対決後、五月四日（新暦六月十一日）宿所の築地本願寺中成勝寺で、大瀛師は宿痾の労咳のため往生の素懷を遂げられました。行年四十六歳という若さでありました。ところで先日広島別院で布教使の研修会があり、龍谷大学からN教授が出講されました。筆者（住職）も参加して勉強しましたが、その席上こう言うことがありまし



初参式にお参りしてくれた藤井裕也くん（右）と藤井由美子さん（中央）、樋口静枝さん（左）。関連記事は五頁。

た。先生は「おしやるのです。』お浄土からの世に還(かえ)っての還相(げんそう)の「還相」を「還來穢國(げんらいしやく)の相状」と釋名(しやくめい)「解釈」するが「還相はわたしに付けて言えるが、」回向(くわう)はアマタ仏に付けて言っているのであってわたしには言えない』よ、そこで私(わたくし)が質問(しつもん)しました。「お浄土に生れてアマタさまにさせていたいただいた私(わたくし)がいろんな相(すがた)をとって」還相(げんそう)回向(くわう)に出かけるのだから、「還相」はもちろん「回向」も私に付けて言えるのではないですか?」よ、すると先生は「なんと」お浄土へ生れて大瀛(たいえい)のさとりは開(ひら)くが、アマタさまにはならない」とおっしゃるのです。私は本(ほん)心にびっくりして、一体、親鸞(しんらん)筆(ひつ)入(いり)のどの文(ぶん)を押(お)さして「言(こと)ひ答(こた)へてく」ので「おしやる」も開(ひら)かないが、アマタ仏に

もならない」と言(こと)ひのなりまだ筋(すぢ)が通(と)っていますか?」わたしは開(ひら)いてもアマタさまにはならない(ならない)のいかなれないのか?」とはまったくわけのわからない話(わたりごと)です。親鸞(しんらん)さまの書(か)かれた『一念(いちねん)多(た)念(ねん)文(もん)意(い)』には願(ねが)力(りき)の白道(びやくどう)を二分(にぶん)分(ぶん)やうやうづつあゆみゆけば、無(む)碍(がい)光(こう)仏(ぶつ)のひかりの御(ご)ころにをさめとりたまふがゆゑに、かならず安樂(あんらく)浄土(じやうど)へいければ、弥陀(みだ)如来(にょらい)とおなじく、かの正覺(しやうかく)の華(はな)に化生(けしやう)して大般涅槃(だいぱんねはん)のさとりをひらかしむるをむねとせしむべしとなり。「

とあります。すなわち、「この世(よ)でアマタ仏(ぶつ)のご本願(ほんがん)を信じ、お念(ねん)仏(ぶつ)を意(い)ふものは、かならずお浄土(じやうど)に生(な)れて、光明(くわうみやう)無量(むりやう)壽(じゆ)無量(むりやう)の弥陀(みだ)同(どう)体(たい)のさとり(アマタさまに)お世(よ)をいたたくと言(こと)ひ」を聞(き)かされていたたくのであり

ます。大瀛(たいえい)上(じやう)百(ひやく)回(かい)念(ねん)の年(ねん)に、その出身(しゆしん)地(ち)の公(こう)鳥(と)へ、中央(ちゆうやう)の学(がく)者(しや)がら「いづい」異(い)説(せつ)を聞(き)くと、思(し)議(ぎ)な因縁(いんげん)を感じました。蓮(れん)如(にょ)上(じやう)人(にん)御(ご)一(いつ)代(だい)記(き)聞(き)書(しょ)に「言(こと)ひわけてあります。聖(せい)教(きやう)は句(く)面(めん)の(ごと)くこころ得(う)べし、そのうへにて師(し)伝(でん)・口(く)業(ごう)はあ(あ)るべきなり。私(わたくし)にして会(え)積(せき)するこころ、しかるべからざるこころなり。」

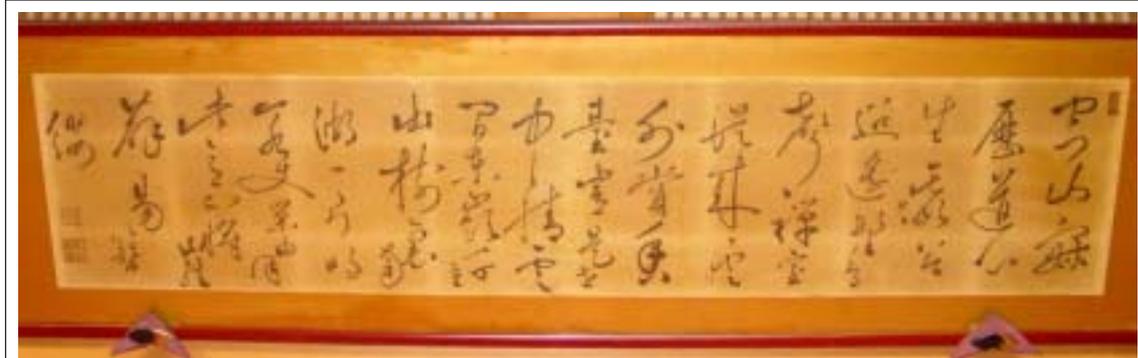
アマタ如来(にょらい)の『往(おう)相(さう)回(かい)向(きやう)』のおはたらきによつて、お浄土(じやうど)に生(な)れ、大瀛(たいえい)のさとりを開(ひら)かせていたたくこの道(みち)筋(すぢ)をお示(おし)し下さ(くだ)したのが、『教(きやう)行(ぎやう)証(しやう)文(もん)類(るい)』中の「行(ぎやう)文(もん)類(るい)」、「信(しん)文(もん)類(るい)」、「證(しやう)文(もん)類(るい)」の内容(ないよう)であります。そして更に、「證(しやう)文(もん)類(るい)」に示(し)された「大瀛(たいえい)を説(せつ)明(めい)して、光明(くわうみやう)無量(むりやう)壽(じゆ)無量(むりやう)の真(ま)實(じつ)真(ま)土(ど)のさとりに、すなわ

ち「弥陀(みだ)同(どう)体(たい)のさとり」を開(ひら)かせていたたくことを「真(ま)實(じつ)真(ま)土(ど)文(もん)類(るい)」にお示(おし)くだされたのであります。すなわち先(ま)ず、「聖(せい)教(きやう)を句(く)面(めん)の(ごと)く」ただけ「当然(たうぜん)この私(わたくし)が、弥陀(みだ)同(どう)体(たい)のさとり」すなわちアマタさまにらせていたたくことなるのです。その上(うへ)私の教(きやう)えていただいた諸(しよ)和(わ)上方(じやう)の「師(し)伝(でん)・口(く)業(ごう)」も当然(たうぜん)であります。

またこれは、瓜(うり)生(せい)津(つ)和(わ)上(じやう)がいつも我(わ)れ学(がく)生(せい)に「注意(ちゆうい)下さ(くだ)したご文(ぶん)でもあります。祖(そ)意(い)(宗(そう)祖(そ)のお心(こころ)を類(るい)のいかに細(こま)心の注意(ちゆうい)が必要(ひつやう)か、今(いま)更(さら)によつて、このご文(ぶん)を深く味(あじ)つことであります。

原爆(げんばく)の川(か)ゆるやかに花(はな)見(み)船(ふね)

(堀(ほり)岡(おか)春(はる)三(さん))



西教寺(さいきやうじ)にある大瀛師(たいえいし)の書(か)

西教寺(さいきやうじ)に大瀛(たいえい)さんの書(か)があります(本(ほん)坊(ぼう)表(おもて)庫(こ)裡(り)に掛(か)けてあります)。『唐(たう)詩(し)選(せん)』にある張(ちやう)説(せつ)の詩(し)だそうですが、皆(みな)さん読(よ)めますか?

空(くう)山(さん)寂(じやく)摩(ま)訶(か)して道(みち)心(しん)生(せい)ず。

虚(こ)谷(こく)迢(てう)遙(てう)たり野(の)鳥(と)の聲(こゑ)。

禅(ぜん)宗(そう)從(じゆ)來(らい)書(しよ)外(がい)の賞(じやう)。

香(かう)墨(ぼく)墨(ぼく)是(ぜ)れ世(ぜ)中(ちゆう)の情(じやう)なりや。

雪(ゆき)簡(かん)東(とう)鑑(かん)千(せん)軍(ぐん)出(しで)て樹(じゆ)裏(り)南(なん)湖(こ)一(いつ)片(ぺん)明(めい)かなり。

若(わか)し栗(り)田(でん)と此(こ)の意(い)を同(どう)じしせしめば、羅(ら)辟(へい)を將(まさ)つて響(きやう)響(きやう)に「勿(な)えし」。

残念(ざんねん)ながら読(よ)めても意味(い)が分(わ)かりませ(ま)せんね(波(な) )。長(なが)ノ木(き)本(ほん)坊(ぼう)にお参(ま)り下(くだ)されば分(わ)かるようにしておきますので、どうぞお参(ま)り下さ(くだ)いな。

ながのきほんぼうほんどうしゅうふくはじ

# 長ノ木本坊本堂修復始まる



本堂をすっぽり覆う素屋根も完成

いよいよ本格的に修復が始まりました。本堂はすっぽりと素屋根で覆われ、七月一日より瓦降ろしが始まりました。

今後は、本堂を半解体して細部にわたり調査を行います。工事費は約一億二千万円の予定ですが、この時の調査結果に従って若干の見積もり調整が行われます。

また、寺報九〇・九一号でもお知らせしましたが、修復工事

## 総額約1億2千万円の工事

工事費 1億660万円  
設計管理費 1050万円

追加 約500万円  
(修復工事報告書作成費)

気になる募財の方は、皆さんのお陰で現時点で一億四千万円を上回る喜捨が集まっ

報告書を作成することになり、将来的に文化財にもすることが出来るようにしておくためには必ず必要な書類なので、この費用が、ご案内の一億二千万円に加え約五百万円が必要となります。

報告書を作成することになり、将来的に文化財にもすることが出来るようにしておくためには必ず必要な書類なので、この費用が、ご案内の一億二千万円に加え約五百万円が必要となります。

ています。

この報告書に必要なお寺の歴史に関する資料がないか皆さんにもお尋ねしましたが、先日お寺の経蔵を整理していただきましたら、これに係る古文書が出てきました。

今までは、一七二二(正徳二)年に西教寺本堂が焼失したという記録があり、現在の本堂はその後再建されたものと考えられていますが、明確な証拠になるものがないませんでした。

今回出てきた古文書による



「大きい鬼瓦ですなえ。」瓦降ろしを視察する水口満夫(修復委員長・写真右)さんと向田敏明(修復委員・写真左)さん。

と、二九歳で継職した第六世順正(一七〇六〜一七六二)の時に、五軒四面では狭小なので七軒四面の本堂に再建したとあります。焼失記録と今回出てきた記録をそのまま信用すれば、一七二二年に焼失し、新しく五軒四面の本堂を建てたが、狭いので七軒四面の本堂に再建したという事になります。時期は、二十九歳の順正が継職した一七



今回出てきた古文書

三四(享保十九)年から一七六二(宝暦十)年の間と考えられます。この本堂が、今修復している本堂であれば、築二四〇〜二七〇年の本堂ということになるでしょう

注 「正徳二年第三世の時の祝融(=火事)に罹り舊記等焼失す」(呉市史第1輯・一九二四年)

編集者



**佐々木桃枝さん**  
 荒神町・草里町地区を  
 担当され、西教寺世話  
 人の中でも最長老とし  
 て長年ご報酬下さいま  
 した。聞法にも励ま  
 れ、その遺風がご家庭  
 にも残っております。



筒本ゆかりさん



長年望地地区のお世話  
 を下さった筒本スミエさ  
 んが体調不良のため引退  
 されました。筒本さん  
 厚井さん長い間ありが  
 とございました。筒  
 本ゆかりさんどうぞよ  
 りしく願います。

され、新たに筒本ゆか  
 りさんがお世話をして  
 くださることになりま  
 した。

また、新旧世話人の  
 円滑な引継のため留任  
 されていた三津田地区  
 厚井喜美恵さんが無事  
 引継ぎを果たされ引退  
 されました。筒本さん  
 厚井さん長い間ありが  
 とございました。筒  
 本ゆかりさんどうぞよ  
 りしく願います。

## 敬悼録

四月	四月
四日 西辰川二	四日 川上
八日 東中央四	八日 佐々木
九日 東三津田町	九日 伊藤
十二日 西惣付町	十二日 鈴木
十三日 伏原三	十三日 平本
廿三日 三條一	廿三日 倉員
五月	五月
五日 義人	五日 横手
八日 桃枝	八日 栄
九日 行雄	九日 栄
八日 敏江	八日 栄
十三日 政幸	十三日 栄
廿三日 恵子	廿三日 栄
五月	五月
五日 義人	五日 横手
八日 桃枝	八日 栄
九日 行雄	九日 栄
八日 敏江	八日 栄
十三日 政幸	十三日 栄
廿三日 恵子	廿三日 栄

六月	六月
十日 東愛宕町	十日 小森
廿一日 伏原一	廿一日 西田
廿日 東辰川町	廿日 河本
二日 安佐南区	二日 一原
十一日 阿賀北四	十一日 折出
十三日 東辰川町	十三日 北川
廿八日 吾妻一	廿八日 本川
廿九日 西中央五	廿九日 杉岡
六月	六月
二日 安佐南区	二日 一原
十一日 阿賀北四	十一日 折出
十三日 東辰川町	十三日 北川
廿八日 吾妻一	廿八日 本川
廿九日 西中央五	廿九日 杉岡

(敬称略 年齢は数え年)

## 藤六

久保田利数

(宇治拾遺物語より)  
 今は昔、藤六という歌詠  
 みがあつた。誰もいないこ  
 とを知つて下衆(身分の低  
 い者のこと)で、ここでは使  
 用人の意である。俗に「下  
 衆の智慧は後から」と言つ  
 ように、下衆の者はその場  
 では何の智慧も出ないが、  
 その事が了つて後よい考え  
 が出る)の家に入り、鍋に



ある物をすくい食べている  
 と、この家のおかみさんが  
 水を汲んでおもてより帰つ  
 てきた。みると、すくい食  
 う者がいたので、どうして  
 留守中に人の家に入つてこ  
 んなことをするのか、腹立  
 たしいことよ、やや、旦那  
 (藤六)さまでばございま  
 せんか、それなら歌をお詠  
 みなさいと言ひ迫めたの  
 で  
 むかしより  
 あみだほとけの  
 ちかひにて  
 にゆるものをば  
 すくふとぞみる  
 (編集者註)  
 昔から阿弥陀仏の誓いで、  
 地獄の釜で煮られる衆生を  
 救いとるといつ。(だか  
 ら、私も釜の煮物をすくい  
 とつて居るのです。)

## 命日最勝講法座

真宗門徒にとつて、親鸞さ  
 まの命日は、特別な日で  
 す。どうぞご参詣下さい。

日時 毎月十六日  
 八時半～十一時スギ  
 場所 長ノ木本坊  
 (長ノ木町十六ー〇  
 椅子席です)

## お斎

もありません。  
 お食事のことです。希望  
 者は、当日8時までに、  
 お寺(21)3714か  
 最寄りの講中までお申し  
 込み下さい。(精進料理・  
 三〇〇円)



精進料理のお斎には心がこ  
 もつています。写真は平本和  
 子さんお手製の箸袋

第三十七回 初参式



第三十七回  
初参式参加者

甚田智也 向田朱里  
原田夏奈 榎坪さくら  
空井慕晃 萬年容  
神田真依 藤井裕也  
東佳太 前場涼  
永谷咲希 前場敬太  
向井理緒 濱西貴弘  
(順不同)

# 降誕会



三津田支坊のお斎



みごと西教寺賞の除湿乾燥機を射止めた圓田千尋さん。日校生徒がゲットしたのは初めて。

今年も親鸞さまのお誕生日である降誕会法座が、長ノ木本坊 蔵本通・三津田岡支坊でつとまりました。また、お誕生日に因んで、初参式・入学奉告式・ビンゴゲーム大会など恒例の行事も行われ、沢山の方がご縁を結んでくださいました。

三津田支坊は、沢山の参詣者でにぎわいました。最終日の朝席参詣者には、お斎(＝仏教の食事・無料)がお接待されました(材料は佐々木伝さんの寄付)。

また、長ノ木本坊では、狭い表庫裡を上手にやりくりしながら、今年もお抹茶のお接待がありました。例年、赤ちゃんの初参式と一年生の入学奉告式は長ノ木本坊で行いますが、今

年は修復工事に入ったため、蔵本通支坊で行われました。どういった理由か今年も沢山の方が参加してください、とても賑やかでした。

また、蔵本通支坊では、法座参詣者と日曜学校生徒合同で行う、恒例のビンゴゲーム大会で盛り上がりました。最近では最高の百二十名の老若男女が阿

## 奉賛ビンゴゲーム大会

第十一回入学報告式



第十一回  
入学報告式参加者

基田さくら 亀田貴之  
福光史花 向田有沙  
竹岡佑里 脇本麻依  
浜本智樹 高下田早希  
向井将喜 前場涼  
吉中崇裕 (順不同)

弥陀さまの前に集い楽しいひと時を過ごしました。

また、お帰りの際に、安芸教区少年連盟の推進する「キャンディー一個分を」運動をお願いしましたところ、一万三千三百十三円のご喜捨を頂戴しました。ダーナイインターナショナルを通じて、インド・パキスタン・スリランカ等の学校・福祉厚生施設・お寺などに送金されます。

活動する婦人会

婦人会の活動が活発に行われています。去る七月四日は、毎月住職が奉仕布教にお参りしている三滝苑（広島市西区）を訪問しました。住職のお話の後、婦人会と有志により歌や踊り、フラダンスや手品、さらには安来節や南京玉すだれ、どじょうすくいなど、十六種もの出し物でお騒がせしてきました。また、七月五日、十一日には蔵本通支坊・長ノ木本坊で（次頁）



三滝苑でフラダンスを踊る婦人会のメンバー。



第5回研修会・総会（於長ノ木本坊）



第5回研修会・総会（於蔵本通支坊）

それぞれ研修会が開かれ  
いずれも前回を上回る約七  
十名の参加がありました。

また、「脱・敷居の高い  
お寺」を目指して、長ノ木  
本坊婦人会は法座の昼席に  
「ティータイム」をはじめ  
ました。お茶を飲みながら  
ご講師を囲み、楽しく話を  
することを通して仏教を身  
近なものにしようという企  
画です。まだ試行錯誤の段  
階ですが、お寺参りの楽し  
みが一つ増えた感じではす  
べし。皆さんいかがですか？



「かえって緊張するワ。  
という感じの皆さん。」

本坊西門前に駐車場  
皆さんどうぞご利用下さい



### 誓子の日記

#### 「揺れる親心」の巻

うっとうしい梅雨がもつ  
し続くようです。今のこの  
暑い日もそう多くないので  
責空が恋しい感じで久しぶり  
に夏を心待ちにしています。  
七月に入り、長崎で悲しい  
事件がありました。始めは  
被害者の立場で（我が子が同  
様の事件に巻き込まれない様  
に）ニュースに耳を傾けてい  
ましたが、容疑者が少年と分

かつてからは、逆の立場から  
も見てしまい、私の気持ちは  
とても複雑なものとなりまし  
た。

これから何年後か、順々  
に思春期を迎えてゆく息子達  
をちゃんと育てることができ  
るだろうか、とても不安で  
す。今でさえ、反抗期の四歳  
児に振り回されているのに、  
中学生位になって口もきいて  
くれなくなったら……（落ち  
込んでゆく私）。

先日、偶然にも元児童相談  
所所長の教授さんのお話を  
聴く機会がありました。  
大人と同様子供も、様々  
な不安や怒りをもちながら  
バランスを保って生きてお  
り、そのバランスが崩れる  
時、判ってほしい相手に対  
して、言語や行動、身体的  
精神的な症状としてシグナ  
ルを送るのだそうです。周  
りの大人がそのシグナルに  
気づけなくてはなりません

ん。なかなか難しいことで  
す。

—そうよ、この子達のこと  
を一番分かってやれるの  
は私たち親しいかない  
じゃない（幸か不幸か土  
壇場で開き直れる性格の  
私）—

せめて我が子だけでも一番  
判ってやれる存在でいたいも  
のです。

少し元気を出して、遊んで  
いる息子たちのほほを振り返  
ると、脳天気三人でじゃれ



六月二十二日夏至の日の夜電  
気を消して過ごす「百万人の  
キャンドルナイト」。わが家  
も三〇分だけ参加しました。

<http://www.candle-night.org/index.html>

合っている。

—まあ今のところ大丈夫  
かあ（脳天気な私）—

夏本番とともに、恐ろしい  
夏休みが始まります。ますま  
すパワーアップした三人が毎  
日家の中に。  
長い長い四〇日間はもうす  
ぐです。（おしまい）

### お 礼

- 三津田支坊 降誕会お齋材料 佐々木伝八ガキ
- 久保アヤコ
- 高須賀スミエ
- 小堀仏壇店（呉市本通）
- ぞうきん
- 河野和俊
- 降誕会ビンゴゲーム商品
- 高島眞子（ママん家）
- 吉中武雄・哲枝
- 高須賀スミエ
- 水口満夫・貞子
- 福島知真・真介
- 木村哲夫・綾美
- 久保アヤコ
- パナピットやまもと
- 樋口邦彦・静枝
- 井上力ズエ
- 平本和世
- 小田原一・倅江
- 藤川悦子
- 古塚マツエ・里見
- 橋詰昭三・サトエ
- 内田慶子
- 前野輝美 鈴江
- 長沖和子
- 齊藤芳樹・ユミエ

- 金延健二
- 伊佐治幸子
- 福光年宏
- 永田益恵
- 石田勉・三重子（石田薬局）
- 堀岡春三・テル工
- 小堀忠雄・佐代子
- （小堀仏壇店）
- 匿名希望の某女性
- 岩崎正衛・ヤラ
- 岩崎智寧・誓子
- 多田大樹
- 湯村高志・仙子
- 南徹
- （敬称略）

### お詫びと訂正

- 九二号八頁
- 三津田支坊降誕会法座
- （誤）五月十三日（火）朝席
- （正）五月十三日（火）夜席
- 九二号三頁 お礼 ダーナ
- （誤）長ノ木本坊
- （正）長ノ木本坊
- 二八、一〇〇円



新聞に載せる記事、ご意見  
ご感想をお待ちしています。

〒737-0051  
呉市中央7-7-13  
西教寺蔵本通支坊  
西教寺報編集局 宛  
FAX( 0823) 21-2795  
Email chinei63@enjoy.ne.jp